

人権センターだより

Vol. 118



ふれあい人権講座 第8回 姫路市レザータウン 高木・革の里視察研修

かなとせいかくしよ
金俊製革所

代表 金田 奉文さん

○皮革産業の歴史と工場見学

姫路市は、古くよりなめしの技術が発展してきた地域です。なめしの行程で重要な水源が豊富にあったことも発展してきた要因です。西日本では多くの牛が飼われていたので、原料である牛革の集荷が容易であったことや比較的温暖で雨も少なめの土地であったため、天日に干す革さらしに都合がよかったことや皮の保存や処理に必要な塩の入手が容易であったからです。また、大阪・京都など政治・経済・消費の中心地とも近い関係にあったからです。

皮革のふるさととしての発祥の地は、市川の上流約10kmのところにある高木地区です。高木地区は、皮革



産業として地域の育成が藩の政策としても強く行われていたようです。なぜ市川の水が良かったかは、それは上流に生野銀山があり、ここから流れる水にミョウバンが含まれていました。その中に組成としてアルミが含まれていたため、なめす力があり白なめしの革を作るのに丁度良かったことで、ここ高木に定着したそうです。

次に工場見学を行いました。金田さんから革の出来るまでの工程を詳しく説明して頂きました。実際に革に触れて素材の特徴を感じることも

出来ました。これまで高い誇りとかだわりを持って、皮革の文化を継続してこられたから、現在まで受け継がれているのだと実感しました。参加者からの感想では、

○歴史も深いものがあり、技術も大変自信をもっていると感じた。

○以前兵庫県知事賞を受賞されており、昔からの職人さんの技術が現代にも受け継がれていると思った。姫路市には、皮革などの有名な地場産業があると始めて知ることができた。

等の感想がありました。今回は皮革産業が地場産業として発展してきた姫路の皮革産業の歴史について学びました。



第10回ふれあい人権講座 のお知らせ

男女共同参画

「森林と共に生きる人々」
〜林業の最前線とトナカイと暮らす人々〜

暮らす人々

日南町役場 地域林政アドバイザー
にちなん中国山地

林業アカデミー専任教員

博士(農学) 小菅 良豪さん

日本の国土は7割、日南町は9割が森林です。我々現代日本人は森の民です。また林業は昔半数近くが女性でしたが、現在はほとんどが男性になっています。しかし近年機械化が進み、再び林業現場で活躍する女性を紹介します。

また私たちと同じ森の民であり、森の恵みを最大限受けながら暮らすトナカイエバンキ人の生活を紹介します。彼らのリーダーは女性で、滅びゆく民族の最後のリーダーです。彼らの生き方から、森と人との関係を共に考えたいと思います。



日時 平成31年1月8日(火)

18時30分〜20時

会場 日南町人権センター

(2階会議室)

